

## 【敵: Enemy・adversary】

敵というと、対立や対抗関係にある相手を指す場合があります。ある人が持っている目的、また得ようとしている利益に対して妨げようとする者を敵と呼ぶのかもしれませんが。目的を同じにしている仲間を、裏切るならばその者も敵とみなされるでしょう。また仇とも言います。仇はかたきとも読み、復讐を意味します。

では聖書では、どういう意味で使われているのでしょうか。最初に出てくる箇所は創世記3章14～15節『14 神である主は蛇に言われた。「おまえは、このようなことをしたので、どんな家畜よりも、どんな野の生き物よりもろわれる。おまえは腹這いで動き回り、一生、ちりを食べることになる。15 わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。』』【14 So the Lord God said to the serpent: “Because you have done this, You are cursed more than all cattle, And more than every beast of the field; On your belly you shall go, And you shall eat dust All the days of your life. 15 And I will put enmity Between you and the woman, And between your seed and her Seed; He shall bruise your head, And you shall bruise His heel.”】ここで、蛇はエバを惑わしたので、エバは死ぬものとなりました。そして神はエバと蛇の間に敵意を生じさせました。敵意を持つとは敵同士になることです。その結果は、お互いに争うものになります。それもずっと続きます。

聖書にダビデという王様が出てきます。ダビデの敵は誰を指すのでしょうか。多くいるでしょうが、特に有名な敵としてペリシテ人のゴリアテがいます。ペリシテ人はイスラエル人の敵として出てきます。ペリシテ人はアブラハムの時代に登場し、ゼカリヤ書(預言書)にも出てきます。アブラハムは紀元前3000年頃の人で、ゼカリヤの活動は紀元前600年頃です。実に2400年の間、国が存在していたことになります。しかし、その最後をエレミヤは預言しています。エレミヤ書47章1・4『1 ファラオがガザを討つ前に、ペリシテ人について預言者エレミヤにあった主のことば。4 すべてのペリシテ人を破滅させる日、ツロとシドンを助ける生き残りの者すべてを断ち切る日が来たからだ。まことに主は、ペリシテ人を、カフトルの島の残りの者を破滅させる。』【1 The word of the Lord that came to Jeremiah the prophet against the Philistines, before Pharaoh attacked Gaza 4 Because of the day that comes to plunder all the Philistines, To cut off from Tyre and Sidon every helper who remains; For the Lord shall plunder the Philistines, The remnant of the country of Caphtor.】ペリシテ人の国が繁栄している時にダビデとゴリアテの戦いがありました。ダビデは紅顔の美少年であり、一方ゴリアテは身長3m程、身に着けているよろいは60キロ近くの重さ、そして7キロ程の槍を持っていました。ダビデは身に合うようなよろいと武器を持っていなかったため、勝敗は誰の目にも明らかでした。しかし、ダビデは言っています。I サムエル17章34・36～37節『34 ダビデはサウルに言った。「しもべは、父のために羊の群れを飼ってきました。獅子や熊が来て、群れの羊を取って行くと、36 しもべは、獅子でも熊でも打ち殺しました。この無割礼のペリシテ人も、これらの獣の一匹のようになるでしょう。生ける神の陣をそしたのですから。」37 そして、ダビデは言った。「獅子や熊の爪からしもべを救い出してくださった主は、このペリシテ人の手からも私を救い出してくださいます。・・・』』【34 But David said to Saul, “Your servant used to keep his father’s sheep, and when a lion or a bear came and took a lamb out of the flock, 36 Your servant has killed both lion and bear; and this uncircumcised Philistine will be like one of them, seeing he has defied the armies of the living God.” 37 Moreover David said, “The Lord, who delivered me from the paw of the lion and from the paw of the bear, He will deliver me from the hand of this Philistine.”・・・】ダビデはいつも神を前に置いた生活をしていました。この時も神が救い出してくださると信じ、川へ行き、滑らかな石を五つ選び、それと石投げを持ってゴリアテと対峙して、勝利を得ました。神を信じ拠り頼む者に、神は勝利を与えてくださいます。

新約聖書ではどのように書かれているのでしょうか。神は罪を犯している私たちを、神から離れている敵とみなしています。コロサイ1章21節『あなたがたも、かつては神から離れ、敵意を抱き、悪い行いの中にありました。』【And you, who were alienated and enemies in your mind by wicked works,】神はそんな私たちを、神と和解させてくださいました。ローマ5章10節『敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていだいた・・・』【・・・ When we were enemies we were reconciled to God through the death of His Son,・・・】御子の死とは、イエス・キリストの十字架の死です。イエス・キリストの十字架の死を信じるならば、神は信じた者を敵とはみなさず、救いに入れてくださいます。救いとは人のいのちが永遠に生きることです。